

平成 20 年 5 月 16 日

各 位

会 社 名 新報国製鉄株式会社
代表者名 代表取締役社長 川口 一男
(J A S D A Q ・ コード 5 5 4 2)
問合せ先
役職・氏名 取締役経営企画室長 森 善男
電話 0 4 9 - 2 4 2 - 1 9 5 0

特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成20年12月期より役員退職慰労引当金を計上することに伴い、特別損失が発生いたします。また、平成20年12月期（平成20年1月1日～平成20年12月31日）の業績予想について、平成20年2月22日付当社「平成19年12月期 決算短信」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 役員退職慰労引当金を計上する理由

役員退職慰労金は、従来、支出時の費用として処理しておりましたが、当期より内規に基づく期末要支給見込額を役員退職慰労引当金として計上することに変更いたしました。

この変更は、「役員賞与に関する会計基準」（企業会計基準委員会 平成 17 年 11 月 29 日 企業会計基準第 4 号）が適用され、役員賞与について費用処理されることとなったこと、及び「租税特別措置法上の準備金及び特別法上の引当金又は準備金並びに役員退職慰労引当金等に関する監査上の取扱い」（日本公認会計士協会 平成 19 年 4 月 13 日 監査・保証実務委員会報告第 42 号）が公表されたことを契機に、期間損益計算の適正化及び財務内容の健全化を図るために行ったものであります。

2. 業績に与える影響

(1) 連結決算

上記変更に伴い、平成 20 年 12 月期第 1 四半期の連結決算において、引当金繰入額のうち過年度発生額 222 百万円を特別損失として計上いたします。

(2) 個別決算

上記変更に伴い、平成 20 年 12 月期第 1 四半期の個別決算において、引当金繰入額のうち過年度発生額 178 百万円を特別損失として計上いたします。

なお、上記の特別損失については、前回発表いたしました業績予想に織り込み済みです。

3. 平成20年12月期 連結業績予想の修正等

(1) 中間期 (平成20年1月1日～平成20年6月30日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	3,650	480	460	150
今回修正予想 (B)	4,300	620	650	150
増減額 (B - A)	650	140	190	0
増減率 (%)	17.8	29.2	41.3	0.0
(ご参考) 前期実績(平成19年12月期)	3,069	232	253	133

(2) 通期 (平成20年1月1日～平成20年12月31日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	7,000	770	740	270
今回修正予想 (B)	7,600	930	950	300
増減額 (B - A)	600	160	210	30
増減率 (%)	8.6	20.8	28.4	11.1
(ご参考) 前期実績(平成19年12月期)	6,854	613	636	322

4. 平成20年12月期 個別業績予想の修正等

(1) 中間期 (平成20年1月1日～平成20年6月30日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	3,400	250	260	90
今回修正予想 (B)	4,000	380	430	90
増減額 (B - A)	600	130	170	0
増減率 (%)	17.6	52.0	65.4	0.0
(ご参考) 前期実績(平成19年12月期)	2,844	154	178	103

(2) 通期 (平成20年1月1日～平成20年12月31日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	6,500	430	440	150
今回修正予想 (B)	7,100	550	610	180
増減額 (B - A)	600	120	170	30
増減率 (%)	9.2	27.9	38.6	20.0
(ご参考) 前期実績(平成19年12月期)	6,454	349	345	198

5. 業績予想の修正理由について

(中間期)

売上高につきましては、液晶パネル製造装置用部品の受注増加により前回発表の予想を上回る見込みであります。営業利益及び経常利益につきましては、液晶パネル製造装置用部品の生産高が増加することに伴い、固定費負担が減少し、利益率が改善されることにより前回発表の予想を上回る見込みであります。当期純利益につきましては、税効果等により前回発表の予想に止まる見込みであります。

(通 期)

下期につきましては、半導体業界の動向に不透明感があり、業績見通しを据え置いておりますが、中間期業績予想の修正を受け増収増益となり、前回発表の予想を上回る見込みであります。

※上記の予想は本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります事をご承知おきください。

以 上